

アドバンスト施設による 次世代介護機器導入事例



社会福祉法人ことぶき会

特別養護老人ホーム三鷹げんき

本日お話しする内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順1～6）
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

施設概要

運営法人	社会福祉法人ことぶき会
施設名	特別養護老人ホーム三鷹げんき
所在地	東京都三鷹市大沢4-10-5
定員	144名
平均介護度	3.81 (2025.11月)
職員数	介護士68名 看護師9名 (2025.11月)
特徴	<p>【地域交流スペース】 1階には地域の方々や家族にもご利用いただける地域交流スペースを有しており、入居者様や地域の方々へ向けた様々なイベントを開催しています。</p> <p>【保育園併設】 共同イベントを催したり、共有スペースで遊ぶ姿が日常的にあり、世代間交流が自然に生まれています。</p> <p>【5階屋上庭園】 遠くに富士山を一望できる屋上スペース 花火大会はご家族様と一緒に観覧 お正月は手作りの鳥居を設置し初詣</p>



2020年3月1日開設
ユニット型特別養護老人ホーム
三鷹げんき

<居住スペース>
1ユニット入居者12名
4フロア・12ユニット

施設概要



【入浴機器】

- 各フロアにストレッチャー浴またはチェア浴1台設置あり
(1.3階チェア浴 2.4階ストレッチャー浴)
- 各ユニットにパンジー浴（左写真）または個浴1台ずつ設置
(パンジー浴：入浴用回転いす付き個浴)

導入した次世代介護機器

メーカー名	株式会社 いうら
機器名	リフト付きシャワーキャリーLS-310
台数	5台



導入の手順

導入の6つの手順

手順 1	改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none">● 情報収集● 取組に対する組織全体での合意形成● 実施体制の整備
手順 2	現場の課題を 見える化しよう	<ul style="list-style-type: none">● 課題の見える化
手順 3	実行計画を 立てよう	<ul style="list-style-type: none">● 導入計画づくり● 対象利用者の選定
手順 4	改善活動に 取り組もう	<ul style="list-style-type: none">● 導入準備● 次世代介護機器の活用● 小さな成功事例
手順 5	改善活動を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none">● 効果検証● 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析
手順 6	実行計画を 練り直そう	<ul style="list-style-type: none">● 実行計画の練り直し

取組期間：
約6カ月

取組実施者：
5名→11名
(2025.4月～業務改善委員会発足)

出典：「介護ロボットのパッケージ導入モデル（改訂版）」をもとに作成

手順 1 : 改善活動の準備をしよう

取組期間 : 2024.11月～

手順 1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

● 情報収集

- 既に導入しているユニットへの見学・職員へ使用感ヒヤリング・プロジェクトメンバーによる試用
- ホームページや機器マニュアルの確認

● 取組に対する組織全体での合意形成

- 以前より、リフト浴を他施設で使用歴のある介護職員よりリフト導入の希望があった。
- 施設長より今事業を活用する提案があった。
- 上記希望していた介護職員を含めた職員と施設長の計5名でプロジェクトチーム形成し、ユニットリーダー会議にて導入へ取り組むことを周知した。

● 実施体制の整備

	役職	チーム内での役割
1	施設長	統括責任者
2	ケアサービス部主任	プロジェクトリーダー
3	相談部主任補佐	サブリーダー
4	フロアリーダー	調査・集計主担当
5	ユニットリーダー	研修・マニュアル主担当

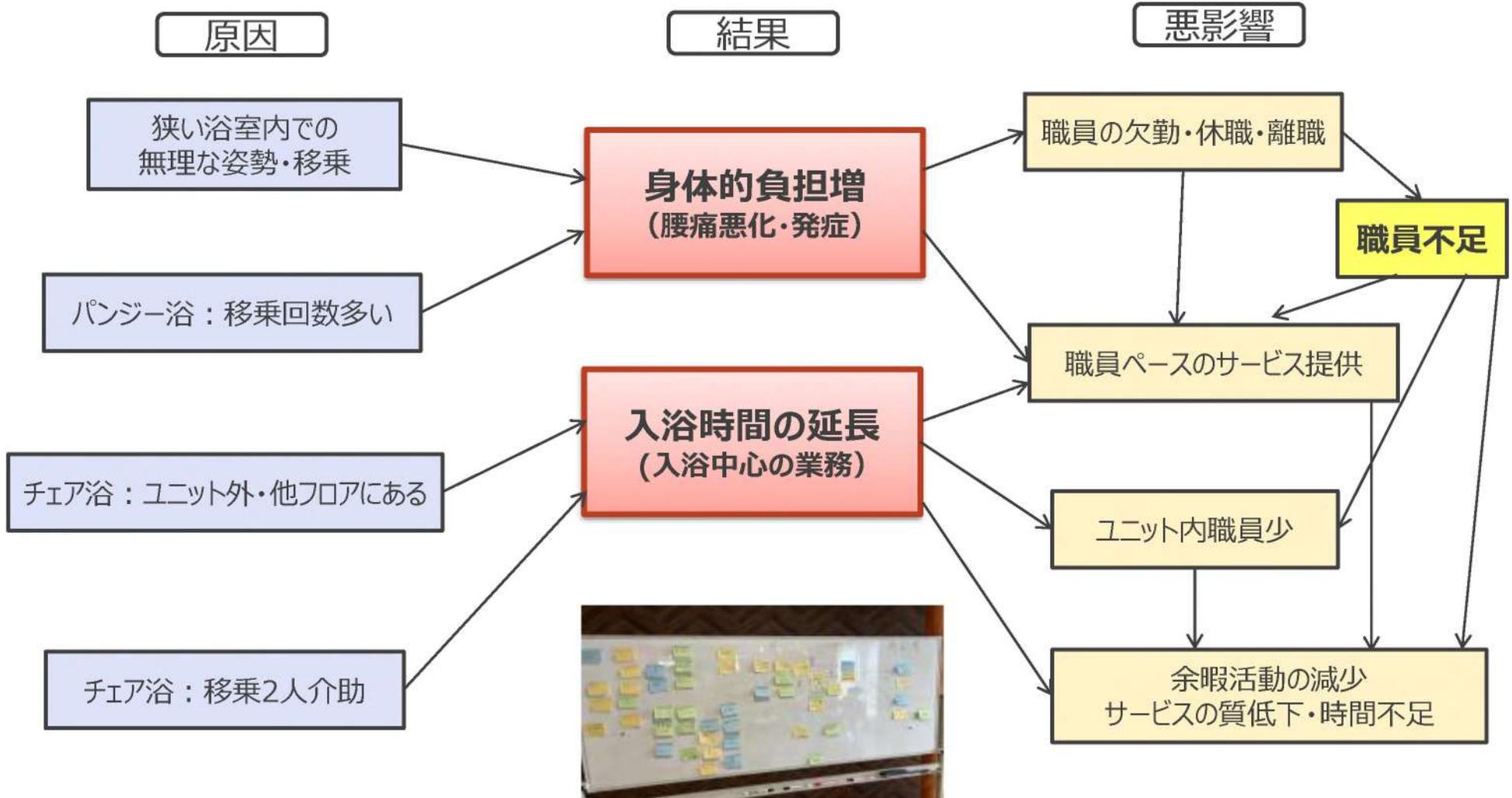
手順 2 : 現場の課題を見える化しよう

取組期間 : 2024.11月

手順
2

● 課題の見える化

● 課題の見える化 : 入浴介助に絞って「困りごと」調査



手順 3 : 実行計画を立てよう

取組期間 : 2024.12月~2025.1月

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 導入計画づくり

□ 課題解決に向けた道筋（困りごと2つの改善）

- ・現在パンジー浴では浴室内での移乗が最低4回必要な現状だが、リフト浴へ変更することで移乗動作を2回に減らす事ができ、職員の**腰痛**を引き起こす機会を減少させることが出来る。
- ・ユニット内（2ユニットに1台）にリフト浴を設置することができたら、現在ユニット外や他フロアへの移動で要している**時間を短縮**することができるため、他の業務への影響や充実したサービス提供へ繋がられる。

□ 導入する次世代介護機器

リフト付きシャワーキャリーLS-310

□ 成果指標

入浴介助にあたる職員対象に以下項目について約1ヶ月ごとにアンケートを実施し効果検証を行う

（初回3月→4月→5月・・・）

- ・腰痛のある職員 39人→35人
- ・身体的負担を感じる職員の割合 74.1%→50%
- ・介助姿勢が辛いと感じる職員 45人→25人
- ・入浴に時間的余裕がないと感じる職員 79.6%→40%
- ・入浴介助時に危険を感じる職員 70.4%→50%
- ・利用者一人当たり入浴介入時間減少

手順 3：実行計画を立てよう

取組期間：2025.2月～3月

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 対象者の選定

□ 選定した対象者とその理由

困りごと①「入浴に多くの時間がかかっている」

＜対象者＞ 現在他フロアの機械（チェア）浴室へ移動し入浴している入居者

＜選定理由＞ 他フロアへ移動して入浴をされている方の方が入浴にかかる時間の短縮が大きいと予想

困りごと②「身体介助の負担が大きい」

＜対象者＞ 現在腰痛のある職員

＜選定理由＞ リフト浴導入により移乗の回数や他フロアへの移動距離の減少があり、身体的負担が軽減されることを予想

□ 選定する際に留意した点

リフト浴導入での効果を数値化し可視化することで職員の満足度に繋がりたいと考え、なるべく入浴にかかる時間の短縮幅（変化）が大きく表れる条件の方を選定するよう依頼した。

手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：2025.3月～4月

手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 導入準備

□ 実施内容

- ①**職場環境の整備**：浴室の環境整備（浴室内が狭くなるため物品保管などについて整備）
- ②**リフト浴該当者の選定**
- ③**使用日時等の設定**：協力ユニットで調整
- ④**入浴動作等の安全性の確認**：介護度の高い方の利用が増える為、移乗補助などの必要について確認
- ⑤**手順書の作成**：使用する職員全員が理解できるように視覚的に分かりやすい機器利用マニュアルを作成 →次ページ参照
- ⑥**記録・報告様式の工夫**：ケアカルテ「入浴方法」項目に「リフト浴」追加
- ⑦**情報共有の工夫**：手順書・使用マニュアルを脱衣所へ配置。手順書はラミネートし見やすい場所へ →次ページ参照
- ⑧**OJTの仕組みづくり**
- ⑨**理念の浸透**：全体メールを利用し、全職員に対して機器導入の背景や意義を説明

□ 導入にあたって大切にしたいポイント

今回の導入は元々職員からの要望や環境によるニーズがあつてのことであり、職員が自分事として導入の流れに参加し理解や満足を感じてもらうためにも、導入前より全職員へ向けて理念や流れの説明を行った。

また、機器搬入の日には設置の様子を写真で送り進行状況を共有することで職員のモチベーションUPを図った。

手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：2025.3月～4月

手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

- 写真を使用し視覚的に理解しやすい手順書を準備。（マニュアルとは別）
- 外国人職員のために、より易しい言葉を使用。
- ふと確認したい時に濡れた手でも見ることができるようにラミネート加工を行った。

- 浴室から手の届きやすい場所へ保管



手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：2025.3月～

手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 小さな成功事例の共有（導入後アンケートより）

□ 職員の声



パンジー浴では4回の移乗が必要でしたがリフト浴では2回で済むことで特に腰への負担が軽くなりました♪

「（パンジー浴より）リフト浴の方が怖くないからいい」という入居者様の声を聞き安心して入浴していただけるようになったことが私も嬉しい♪

（チェア浴より変更）1人介助が可能となったことと、ユニット内で入浴できるようになったことで全体の入浴介助時間が短縮され、気持ちにも余裕ができました♪

□ 利用者の声



これは安心だね！（パンジー浴で浴槽への移動を怖がっていた方）

足が楽になったわ！（浴室内での移動回数が減ったため）

□ 成功事例の共有方法

- 職員アンケート結果は毎月の業務改善委員会で発表し議事録としてユニット配布
- ユニット内でも職員や入居者の声を体験談として情報共有

手順 5 : 改善活動を振り返ろう

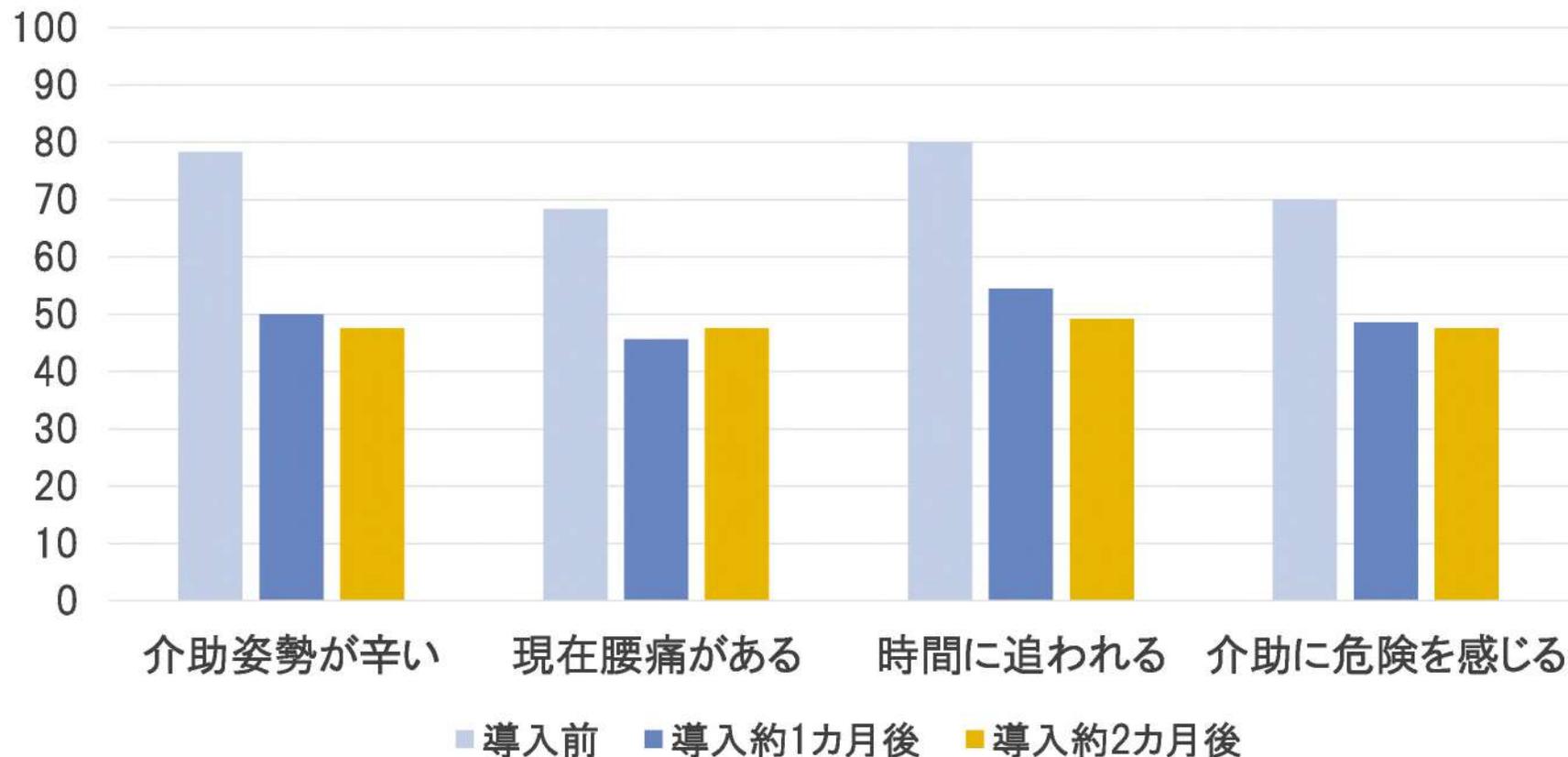
取組期間 : 2025.4月～

手順
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 設定した成果指標における効果検証

リフト浴導入前後の職員アンケート結果



手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 2025.4月～

手順
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析

○ 上手くいった点・その要因

- 導入前に、もともとリフト浴を設置してあるユニットでの見学や現場職員からの声を伝えることで導入を前向きに捉える風土ができた。
- 導入前よりユニットリーダーの協力を得て情報収集や準備を行ったことで、施設全体が同じ方向をみて足並みをそろえて取り組むことができている。
- 実際に使用している職員対象に導入前後にアンケートを実施しフィードバックしていくことで、取り組み自体を自分事として捉え、また変化や効果を実感することで前向きに取り組みを継続してくれていると感じる

△ 上手くいかなかった点・その要因

- ユニットによりリフト浴への移行対象者がおらず、職員教育が進まない状況があった
- (パンジー浴に比べ) 掃除やセットに時間を要するため、腰痛がなく体力に自信のある職員を中心に使用を控える傾向があった (今後腰痛を発症してしまう可能性あり)
- 使用方法について少し自信がなくても自分でマニュアルを確認せず、感覚や口コミで使用する職員がいた
- リフト浴対象者の少ないユニットにとっては専用チェアが「場所をとる物」というマイナスイメージになってしまっていた

手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間 : 2025.4月～

手順
6

- 実行計画の練り直し

● 取組(全体)を通して見直したこと

 Before 

対象者が少ないからリフト浴の
使い方を覚えられない

手間がかかるから使いたくない
(マット着脱・充電器・・・)

マニュアルを調べるの面倒

専用チェアがちょっと邪魔

 After 

協力ユニットで経験する体制づくり
他ユニットとのシフト調整

導入目的の再説明 (個別)

便利な手順書活用の再周知
リーダーによる技術チェック

保管場所の統一 (浴室or脱衣室)

取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

重要

導入前から職員を巻き込んで取り組むとよい

うまくいかなかったり効果を感じにくい際にも自分事としてとらえ、不平不満が出にくい風土に
(△トップダウン ○困りごとシート ○理念浸透…)

重要

導入前から導入後起こりうる問題や課題を想定して準備するとよい

失敗してもPDCAサイクルで問題解決していけばいいのだけれど、失敗は心が折れる機会にもなる
ので予防できることに越したことはない (現場職員の声、想像力…)

重要

マイナス意見も前向きにとらえるとよい

導入後のマイナス意見も大事な材料ととらえ、たとえそれが少数派であっても検討し改善をしよう
という姿勢を見せることで、安心して働き続ける職場づくりにもつながる

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

●「今より絶対よくなる！」と信じて伝え続けましょう！

導入機器選定の際、「これあったらみんな絶対喜ぶよね！」「絶対役に立つよね！」と感じた気持ちを信じて、マイナス意見やU字の法則にめげずに伝え続け、ゆっくりじっくり進めましょう。1年後にはきっと懐かしい思い出となっている事でしょう。

●職員に寄り添うことでの副産物はたくさん！

職員が普段どんなことに困っているのか、そこに寄り添うことから機器選定を始めましょう。職員の体の負担が軽くなれば心も軽くなり、それにより笑顔が増えれば入居者へのサービスも家族の満足度もきっと向上します。職員の施設への信頼や安心感が生まれることで離職予防も期待できます。

●次世代介護機器導入促進事業の活用のすすめ

今回アドバンスセミナーで学んだ導入スキルは、今後機器導入の際だけでなく新たな取り組みを始める際にもきっと活用できます。ぜひ参加しご活用されることをお勧めします。